

書道部 3年 押澤 敦宏 さん

第50回全国高等学校総合文化祭 あきた総文 2026 に出場！

令和7年度10月に行われた第41回長野県高等学校書道展において、当時2年生の押澤敦宏さんがトップ3に入賞し、今年度のあきた総文への出品が決まりました。

582名の出品の中で厳しい予選を勝ち抜いた作品がこちらです！！！！！！ →→→→→

作品制作 2026年1月からあきた総文に向けての制作が始まりました。

出品規定最大寸法である、2尺×6尺(横60センチ×縦181センチ)の紙に予選の時と同様の古典、中国春秋時代の「楚王禽悉鼎(ソオウアンカンテイ)」という篆書体を素材に制作に挑みました。

今回の制作では、予選の時より大きな羊毛筆に道具を変更して挑みました。

羊毛と超濃墨の制作では、用具の特性から、かすれた線(渴筆)が出やすいため、

運筆の速度を抑えながら、墨がたっぷり入っているように見せながらも、

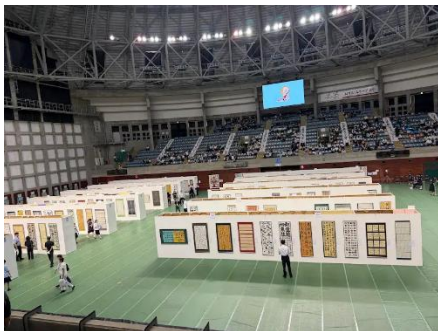
ポイントで動きのある渴筆を入れていくという難しいさじ加減が求められる制作となりました。

墨の濃度にも苦労しながら、2尺×6尺の紙に移行してからはおよそ80枚程度書き込み、

締め切りぎりぎりの3月下旬に何とか仕上げることができました。



大会風景 あきた総文には全国の予選を勝ち抜いた299点の作品が集結しました。



【アリーナ内の展示作品の様子】



【自分の作品の前で顧問とパシャリ】 ↑ 【交流会グループの他の生徒の作品鑑賞カードを記入】 ↑



大会初日には、**開会式・交流会**が開かれました。

秋田を感じられる竿燈を模した紙にそれぞれの願いを込めた言葉をしたためました。

なまはげを模した木のキーホルダーへの文字の揮毫や、秋田杉で作られたハガキに寄せ書きを行いました。

事前にお互いの作品を鑑賞して記入しておいた、鑑賞カードを用いながら、作品に関する感想を伝え合う場面もあり、有意義な時間となったようです。



【交流会での揮毫風景】

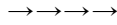
←

【熱気溢れる交流会
会場の様子】





【本人揮毫の温故知新(篆書)】



【他のグループの作品も集めて
立派な竿燈に仕立ててもらいました】



【秋田杉のはがきに寄せ書き】



【まなはげキーホルダー】

大会2日に作品講評会、審査結果が発表となりました。

特別賞43点、奨励賞以上15点が発表となりましたが、惜しくも押澤さんの作品は受賞を逃しました…
作品講評会では時代を追った古典の解説と作品の特筆すべき点を示してくださり、今後の作品制作にも活きる講評会となりました。

今回受賞とならなかったことをとても悔やんでいた押澤さんですが、「この夢は後輩に託す!」と述べてくれました。



【会場入口にて
秋田名物おつかれさまのババヘアアイス】 ↓



バトンは「あきたぽ」から
「つづみ丸」に渡されました。
来年はいしかわ総文です!

書道部の活躍に乞うご期待!!

